

Dr. ジーアの My カルテ

全農家畜衛生研究所
クリニックセンター



豚胸膜肺炎について

冬は寒さのため、豚舎の管理は保温重視となり換気量が低下しがちです。換気量が低下すると呼吸器病にかかりやすくなります。今回は呼吸器病のうち、肥育期に起こりやすい豚胸膜肺炎(App)について紹介します。

● Appってどんな病気？

Appはアクチノバチルス・プレロニューモニエという細菌によって引き起こされる、肥育期に多い呼吸器病です。主な症状は食欲減退、発熱、元気消失、咳などで、重症化すると絞り出すような咳や呼吸困難を示し、急性経過で死亡します。PRDC(豚呼吸器病症候群)のベースとなるPRRS、サーコ、マイコプラズマなどの感染があると重症化しやすく、寒暖差が大きい場合や隙間風などによる寒冷ストレス等が引き金となって死亡事故につながります。Appによる肥育段階の事故は経済的損失が大きい問題です。

● クリニック検査データから見るApp発生状況と対策

クリニックセンターにおける2019

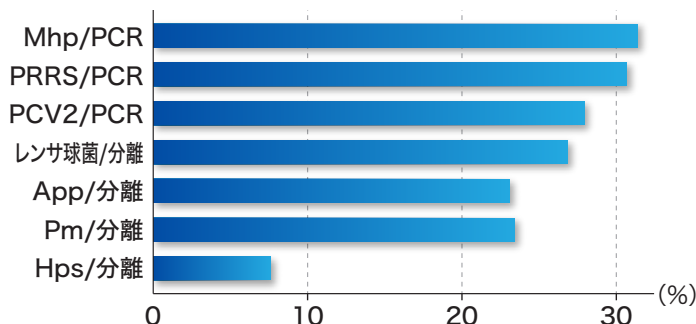
年度検査結果について、豚の肺からの7種類の病原体の検出率を集計すると、Hps(グレーサー病の原因菌)を除く6種類の病原体の検出率に大きな差はありませんでした(図1)。分離されたApp 56株の型別検査では、2型が最も多く、次いで5型、1型でした(図2)。市販のAppワクチンは1型・2型・5型によるAppの予防に有効です。

Appは豚群内で水平感染するので、ロット間の感染防止に配慮したピッグフローやオールイン・オールアウトの管理と豚舎の洗浄消毒が大切です。発症豚はできるだけ隔離して個体治療をします。PRDCのベースとなるPRRS、サーコ、マイコプラズマ等が蔓延している農場では、これらの対策を合わせて行う

事がAppによる事故を防ぐ事につながります。

呼吸器病の対策には保温と換気とをバランスよく実施する事が大切です。腹ばい体位で同じ方向を向いていたり、餌箱や壁に寄り添って寝ている場合は豚が寒がっているサインです。舎内温度を確認する時は、温度計を豚の高さ(人の膝くらいの高さ)に合わせて計測する事が有効です。換気をする時は、舎内温度が急激に下がらないよう、日中の比較的暖かい時間に換気扇をゆっくりと回す等の工夫をしましょう。また、豚に直接風が当たらないようにカーテンを調節する、ビニールシートを張る、寝床や豚房の周囲をコンパネで覆うなどの対策が効果的です。

図1. 豚の肺からの病原体検出率(2019年度)



【各病原体の名称】Mhp: マイコプラズマ・ハイオニューモニエ、PRRS: 豚繁殖・呼吸障害症候群、PCV2: 豚サーコウイルス2型、App: アクチノバチルス・プレロニューモニエ、Pm: パスツレラ・マルトシダ、Hps: ヘモフィルス・パラスイス

図2. 分離されたAppの型別検査結果(2019年度)

